

## 杉並の特養、どうする

22日、杉並区役所では、杉並区長と50歳から75歳の区民10人が参加し、「平成29年度第1回すぎなミーティング」が開催されました。今回のテーマは、『すぎなみの介護：特別養護老人ホームという選択』で、参加者からは地縁関係だけでなく、核家族化などで親戚・家族関係も希薄になりつつある中、将来への暮らし方の不安などが語られ、高齢化社会に対応した特別養護老人ホームの整備を計画的に進めるべきという声が多く聞かれました。

「すぎなミーティング」は、日頃、発言する機会の少ない区民の声を幅広く受け止め区長との意見交換を通じて、その意見を区政に反映することを目的に開催しています。昨年3回の実施を経て、通算第4回目となる今回は、『すぎなみの介護：特別養護老人ホームという選択』と題して、区内の50歳から75歳を対象に無作為抽出で選ばれた10の方が参加しました。参加者の多くは家族の介護を経験している方々です。

22日午後1時30分、区役所でミーティングが始まりました。まずは、杉並区の介護施設の状況について、担当者から説明を行いました。ひとり暮らしの高齢者や認知症の高齢者が増加しつつあるなかで、住み慣れた地域で暮らせるよう在宅サービスに力を入れる一方で、老々介護等の厳しい現実から眼をそらすことなく、介護施設の整備にも力をいれなければなりません。



とりわけ、杉並区の場合、法改正により減少したとはいえ、平成29年6月現在、特別養護老人ホームの入所待機者は約1,000人となっています。

区では、特別養護老人ホーム整備の目標として、平成24年(1,307床)から平成33年(2,307床)の10年間で1,000床を掲げています。区立施設の再編整備を進める中で、学校跡地などで整備を計画していますが、区内で新たな用地確保をすることは容易ではありません。そこで、交流自治体として40年の歴史のある南伊豆町と全国初の自治体間連携による特別養護老人ホームを整備しました。平成30年3月にオープンする(仮称)エクレシア南伊豆の入所受付が7月24日から始まります。こうした区の高齢者施設整備の取り組みを説明した上で、区長と参加者で議論を行いました。

区長からは、「南伊豆の特養は区民の選択肢を広げるための取り組みであり、入所を希望される方には区が責任をもって対応していきます。」との話がありました。参加者からは「このままだと自分たちは介護難民になるのではないかという不安があるので、区内区外を問わず計画的な施設整備で区民の老後の安心を築いてほしい。」など、切実な声が多く聞かれました。

【問い合わせ先】総務部区政相談課：3312-2111 内線1121  
保健福祉部高齢者施設整備担当：3312-2111 内線1181